令和5年度 椎葉村立大河内小学校 学校評価書

4段階評価	4 期待以上 3 ほぼ期待どおり 2 やや期待を下回る 1 改善を要する

学校経営ビジョン	本村の重点課題である「徳育」コミュニケーション能力の育成と「知育」学力向上を最重点目標にすえ、「体育・食育」「地域との連携・協働」の重点目標を達成するために、職員が愛情と情熱をもち、家庭や地域との連携を図りながら、組織的に全力で取り組む。また、保護者や地域住民の信頼と期待に応え、大河内小の子ども、教師、保護者が自分や学校、地域に自信と誇りがもてるようにするための学校経営を行う。

項目	本年度の重点目標	具体的対策(手段)	自己評価	結果の分析・考察および改善策等	学校運営協議会委員からの意見
人間性・社会性の育成	感性を磨き，自分の思いや考えを的確に伝えるコミュニケーション能力等の豊かな人間性や社会性を身に付けさせる。	① 道徳教育の推進	3.6	○ 心豊かな児童を育成するために、各学級において特別の教科道徳の授業を実践し、インターネットを通じて松尾小との合同授業も行った。１年生は村内５校をつないだ授業も行った。また、学校行事や生活科、総合的な学習の時間における体験活動を通して、公共心や規範意識、思いやりの心などを育てることができた。月目標にも道徳の価値項目に関連するものを設定するなど意識の啓発を図ることができた。	○ リモート学習を増やしていくとよい。 ○ 人数が少ないので難しさもあるとは思うが、６年生が最上級生としての自覚を持ち、全体をまとめたり、よい雰囲気をつくろうとしたりする姿がもう少し見られるとよいと思う。(期待も込めて)。現５年生、４年生もそれを見習う姿勢を見せてほしい。
		② 生徒指導や人権教育の充実	3.7	○ 毎月実施している、「あのねタイム」や生徒指導研修会で児童の交友関係や悩み等を把握し、情報共有を行い、指導体制等についても全職員で共通理解を図ることができた。また、１２月の人権週間に合わせて、学級活動や保健学習で、人権に関する授業を行った。	
		③ 読書活動の推進	3.1	○ １２月までの児童への貸出冊数は１０１４冊で、児童１人あたり平均７８冊と、昨年度の同じ時期の貸出冊数と同程度であった。給食の時間に、図書委員会の児童が借り換えを呼びかけるなど、読書への意欲付けを図ることができた。しかし、学校評価アンケートの結果を見ると、読書を家庭で取り組んでいるとは言いがたい。児童は、学校では様々なすき間の時間にも読書をしており、学校での読書習慣を家庭につなぐ手立ての工夫が必要である。	
		④ 学校間連携や豊かな体験活動の実践	3.0	○ 九州大学宮崎演習林施設を活用しての宿泊学習や修学旅行、集団宿泊学習が実施できた。また、集合学習も計画通り実施することができ、村内の学校との交流も図れた。釣りや稲作の栽培活動等の豊かな体験活動も行うことができた。キャリアパスポートも計画的に活用し、家庭との連携も図ることができた。	
授業力向上と学力向上	児童一人一人の学習意欲を高め、授業力並びに学習の資質・能力を向上させる。	① 「分かった・できた」と実感できる授業の実践	3.8	○ 日々の授業においては、宮崎県が示している「ひなたの学び」を意識して授業実践している。また、校内の研究テーマである「ＩＣＴの効果的な活用」に向けて学級担任が各教科において手立て等を工夫し、研究授業等で成果や課題を検証して児童の学力向上へつなげている。インターネットを通じた外部との授業にも積極的に取り組むことができた。	○ 授業参観に参加させていただき、よく工夫されていると思います。 ○ 少人数ならではのメリット、デメリットもどちらもあるが、少人数のよさを生かした授業実践がされていたり、複式解消の工夫がされていたりと、先生方が大河内小の実態に応じた手立てをよく考えてくださっていると感じている。
		② 基本的学習習慣の徹底	3.6	○ 授業開始前に学習用具の準備もきちんと行い、授業開始のチャイムと同時に授業を始めることができている。話の聞き方や発表の仕方など学習のきまりも全学年で共通実践でき、基本的な学習習慣が身に付いている。しかし、家庭での学習については、児童及び保護者の家庭学習に対する意識に差があり、学校と家庭で連携を図りながら家庭学習の取組にも力を入れる必要がある。	
		③ 複式解消や個別指導の工夫	3.3	○ 中学年の算数や中・高学年の理科で複式指導の解消を行うことで基礎学力の定着を図っている。また、本年度から導入された学習アプリを用いて、一人一人の実態に応じて習熟の指導を行うことができた。さらに、タブレットを活用することで、教師が直接関われない時間の個別学習を充実させることができた。	
		④ 特別支援教育の充実	3.4	○ 特別支援コーディネーターを中心に、毎月の校内委員会や夏季休業中の特別支援研修を通して、職員の特別支援教育に関する理解や指導力の向上を図ることができた。	

健康・安全と体力向上	体力・健康づくりの活動を充実し、食育・安全教育を推進させ、児童一人一人に望ましい習慣や実践力を身に付けさせる。	① 体力向上プランの完全実施	3.6	○　体力向上プランの完全実施に向けて、体育の導入時のサーキットトレーニングや休み時間等に活用できる遊具を使った運動の紹介などを行った。親子体力テストも実施し、意識の向上を図ることができた。体力テストの結果は、全員がＢ判定以上であり、Ａ判定の児童が４５％であった。柔軟性に課題が見られるので、サーキットトレーニングの内容を工夫しながら課題の解決にあたっていきたい。	○　全員がＢ判定以上、Ａ判定４５％はすばらしいことだと思います。 ○　体力については、全体的に個々の運動能力が高いので、これを維持・向上できるとよいと思う。体育の授業（スポ少も含めて）を通して、技能だけでなくスポーツマンシップも身に付け、それを行動に移せるようになってほしい。健康・安全、食育に関しては、外部の人材も活用され、計画的になされていると思う。 ○　消防団との避難訓練を、今年は全員参加で行った。今後も継続してほしい。
		② 健康教育の充実	3.6	○　コロナ禍をふまえた感染症予防だけでなく、幅広いテーマで健康教育に力を入れた。業間活動の「すくすくタイム」で、食事や睡眠などの基本的な生活習慣の重要性を繰り返し指導した。また、「すくすくカード」で家庭との連携を図り、保護者の保健に関する意識を啓発することができた。数年来開催することができなかった学校保健委員会も実施することができた。	
		③ 食に関する指導の充実	3.4	○　本年度は、コロナ禍以前のように、図書室で全員そろって給食をとることにした。会食としての楽しさを味わわせながら、児童自ら食事のマナーや偏食等に気を付けた食事ができるようにしている。また、給食当番活動もできるだけ自分たちで配膳させることで、食の大切さを体感させている。「弁当の日」の取組も計画的に実施することができた。食物アレルギーについては、全職員で研修を行い、全職員で共通理解を図りながら対応することができ、事故等もなかった。	
		④ 危険予知能力や危険回避能力の育成	3.5	○　避難訓練や土砂災害防止教室等、地域の方にも協力いただき計画的に実施できた。これらの活動を通して、災害時における「自分の命は自分で守る」という危険予知と危険回避能力の大切さについて、意識付けをすることができた。	
家庭・地域との連携・協働	学校と家庭・地域との連携を通した教育活動を推進し、地域から信頼される学校づくりを行う。	① 地域を生かした学習の充実	3.9	○　本年度は、地域を生かした学習をコロナ禍以前のように行うことができた。村教育委員会が推進する「椎葉村学」を軸として、大河内地区の方々の協力を得ながら様々な学習を行うことができた。	○　九州大学宮崎演習林を活かした体験はすばらしく、今後も続けてもらいたい。 ○　子ども達を中心に、学校、保護者、地域の連携が取れていた。 ○　先生方が地域の活動、行事にプライベートでも参加する姿勢が良い印象を与えていると思う。 ○　神楽参加、臼太鼓などが、これからも継続できたらよいと思います。 ○　教育活動の中で地域人材が効果的に活用されていると感じている。先生方も住民の一員として行事にも積極的に参加され、地域の方々も喜ばれていると思う。また、学校だよりの発行や、ホームページで子どもたちの様子を知ることができ、地域への発信もよくなされていてありがたい。 ○　地域での職場体験がとても有意義に感じられた。
		② 学校と地域が一体となる活動の実施	3.9	○　本年度は４年ぶりに、地区と合同の運動会を実施することができた。臼太鼓や神楽等の伝承活動も、地域の方々にご協力をいただき実施することができた。また、学校だよりやホームページ等で学校の活動の様子なども積極的に発信することができた。	
		③ 地域からの学校支援活動の充実	3.6	○　運動会を始め、米作りやクリスマスツリー作り、読み聞かせなど、様々な行事で地域の方から温かいご支援を頂いた。わらないの体験活動など、新しい取組の提案も公民館からしていただいた。	
		④ 地域から学校運営への参画促進	3.9	○　学校運営協議会を計画的に実施し、学校評価に関しても地域の方の意見を取り入れながら行うことができた。次年度も、引き続き、学校運営協議会を核として地域の方々の参画意識を高めながら、学校運営を進めていきたい。	

次年度の方向性	○　地域素材や人材を活用した体験活動や遠隔授業をさらに推進し、コミュニケーション力や自己表現力の育成を図る。 ○　「分かった・できた」と実感させるために、デジタル教材を生かした授業改善を行い、児童の学力向上を図る。 ○　ＩＣＴの利活用スキルや情報モラルを身に付けた児童の育成を図る。 ○　複式指導の工夫改善を図るとともに、個別指導を充実させる。 ○　家庭との連携を深めて、タブレットを活用した家庭学習の充実と習慣化を図るとともに、親子読書の活動を充実させる。 ○　体力向上プランを生かして、児童の体力向上を図る。 ○　健康面に関する学校での取組が家庭でも継続できるように、情報発信や家庭と連携した取組等を充実させる。 ○　学校運営協議会を核として、地域の意見を積極的に取り入れながら、地域に信頼される開かれた学校づくりを行う。